



# けんかをしない約束

ミルナ・M・ホワイト

ほんとうにあったお話をもとに書かれました

「自分たちのつぎと、……あらゆる武器を取って来て、それを地中深くうめてしまった。」(アルマ24:17)

今日はすばらしい1日でした。ティミーのいとこのマディーが来ることになっていて、しかも、1週間もとまるのです。ティミーは、マディーにおもちゃを見せたり、一緒に遊んだりするのが楽しみで、待ち切れませんでした。

マディーが来ると、すぐにぼうけんが始まりました。最初の2日間、二人はきょうりゅうのおもちゃで遊んだり、海賊ごっこをしたりしました。すごく楽しかったです。でも、3日目からは、それほどうまくいかなくなってきました。ティミーとマディーの意見がすべてのことについて合わなくなりました。

「外に行って、ツリーハウスを宇宙船にしよう!」とティ

ミーが言うと、

「それはやりたくないな。家の中において、お絵かきしましょ」とマディー。

「家にいたらつまらないよ!」

「そんなことないわ! いつもあなたがやりたい遊びばかりしているじゃない。なんであなたばかりが何をして遊ぶかを決めるの?」

ティミーとマディーはけんかばかりしていました。もうとても楽しくありません。ティミーはけんかをするときに感じる気持ちがきらいでした。そこで、あることを思いつきました。

「ねえ、マディー。アンタイ・ニーファイ・リーハイ人みたいにしろよ」とティミーが言いました。

「何人?」



「アンタイ・ニーファイ・リーハイ人さ。モルモン書に出てくる、武器をうめてしまった人たちだよ。戦いばかりしていたけど、後悔して、悔い改めたんだよ。天のお父様に、二度と戦いませんって約束したんだ。そして、約束を守りたいっていう気持ちをしめすために、武器を土の中にうめたんだよ。」

急に、ティミーの頭にアイデアが思いつきました。「おもちゃのつぎを作って、土の中にうめて、もうけんかはしないって約束しようよ。」

「いいわよ」とマディーが言いました。

ティミーとマディーはティミーの部屋のプラスチックでできたおもちゃの大工用具を使って、いろいろなつぎを作りました。長いものもありましたし、短いものもありました。いろいろな色のものもありました。作り終わると、ティミーとマディーは武器を玄関先の大きなしき物の所に持って行きました。

「このしき物を、大きなあなにしよう。」ティミーが言いました。

二人はしき物のはしに座ると、つぎを一つずつしき物の上に置いて、うめているふりをしました。

ティミーは最後のおもちゃを、積み上がったおもちゃの山に置きながら、「もう二度とけんかをしないと約束します」と言いました。

「わたしもです」と、マディーが言いました。「じゃあ、遊びに行こう! 何して遊ぶ?」

「絵をかこうよ。」笑顔で、ティミーが言うと、マディーもにっこりしながら、「その後、外で宇宙船ごっこしましょうね」と言いました。

その週ずっと、ティミーとマディーは約束を守りました。けんかをやめてから、二人はもっと楽しく遊ぶことができました。

このお話を書いた人は、アメリカ合衆国ユタ州に住んでいます。



イラスト/デニージョーンズ